

第二回 先進的企業視察（福岡県北九州市）

北九州といえば、1901年近代製鐵所誕生以来「モノづくりのまち」として栄え、2015年「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されています。

現在では、このモノづくりの技術を土台とした最先端の技術がこの地で生まれ、またそれらを見て体感することができる街となっています。

今回は、進歩し続ける日本の技術に触れ、そこで働く方々にお会いしてきました。



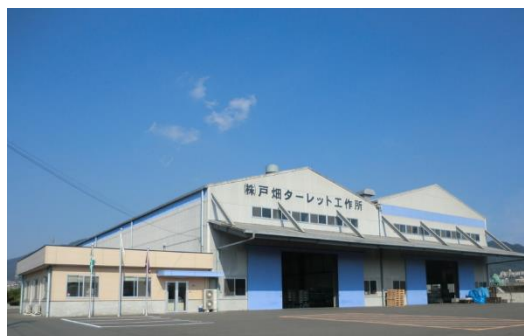
こんなお土産発見！
”鉄ネジ”をイメージしたチョコレート
実際にネジを締めることができましたよ！

株式会社 戸畑ターレット研究所

代表者 代表取締役社長 松本 大毅
創業 1962年 12月
資本金 2,200万円
売上高 約25億円
従業員数 240名
所在地 福岡県北九州市小倉南区新曾根 11-31

<http://www.t-turret.co.jp/>

事業内容 アルミダイカスト部品の製造・販売
非鉄鍛造部品（銅・アルミ系）の製造・販売
機械加工全般および摩擦圧接加工



「会社が変わりだしたのは今から15年程前からです」とお話しいただいたのは、池田経営管理部長です。

価格勝負の仕事には先がないと、技術で勝負しようと全社一丸となって取り組んで来られたようです。でも、これは技術に自信がなくては決してできませんよね！

この頃、縁あって自動車メーカーの勉強会に参加したことから、自動車事業に参加されたそうですが、そのためには、もっと“会社の魅力”（付加価値）を付けなくてはいけないと考えられたそうです。

そこで、国や県の助成金・補助金を積極的に活用し、大学・行政の外郭団体等の協力を得て研究開発・技術開発を積極的に行ってこられました。

そして平成27年2月、7年かけて開発した技術が**特許を取得！！**現在は全社売上の約6割を自動車部品事業が占めほどの成長へとつながっています。

この開発により、**アルミでも鉄の80%の強度を確保**でき、**部品の軽量化が実現！** ⇒ それにより燃費も改善されました！

なんとこの部品は高級車に使われているようです。



(イメージ)



お世話になった
池田部長です

売上に伴い、社員数も数年前は 100 名程度だったそうですが、現在は 240 名に増加。この人手不足に人が集まるってうらやましいお話ですよ。

こちらの会社では“ダイバーシティ経営”に取り組んでいらっしゃいます。
 「うちは“ダイバーシティ経営もどき“ですが、気が付けば結果的にそうになっていた・・・。」とおっしゃいましたが、きっかけは人手が足りずアルバイトを探していた時に、たまたま留学生から応募があり採用したところ、とてもよく働き、周囲の評判も良かったことから、一人二人と増えていき、現在の様になったそうです。

私たちに工場を案内して下さった社員の方も、元留学生で現在は正社員として活躍されています。



ダイバーシティ経営

高齢者雇用 (70 歳以上を 2 名含む)	29 名	技術がある
子育て応援雇用 (産休中 2 名を含む、母子家庭社員や小学生以下の子供を持つパート等)	20 名	時間内での集中力がある
外国人雇用 (元留学生社員、ベトナム実習生、留学生アルバイト)	31 名	優秀な人材が多い 真面目で良く働く
障がい者雇用 (軽度知的障がい者) ※2 週間のインターンシップで適性 (出来ること)を確認	6 名	臨機応変にはできないが、 やることを限定すると 力を発揮できる

現在 86 名と全体の約 1/3 を占めています。

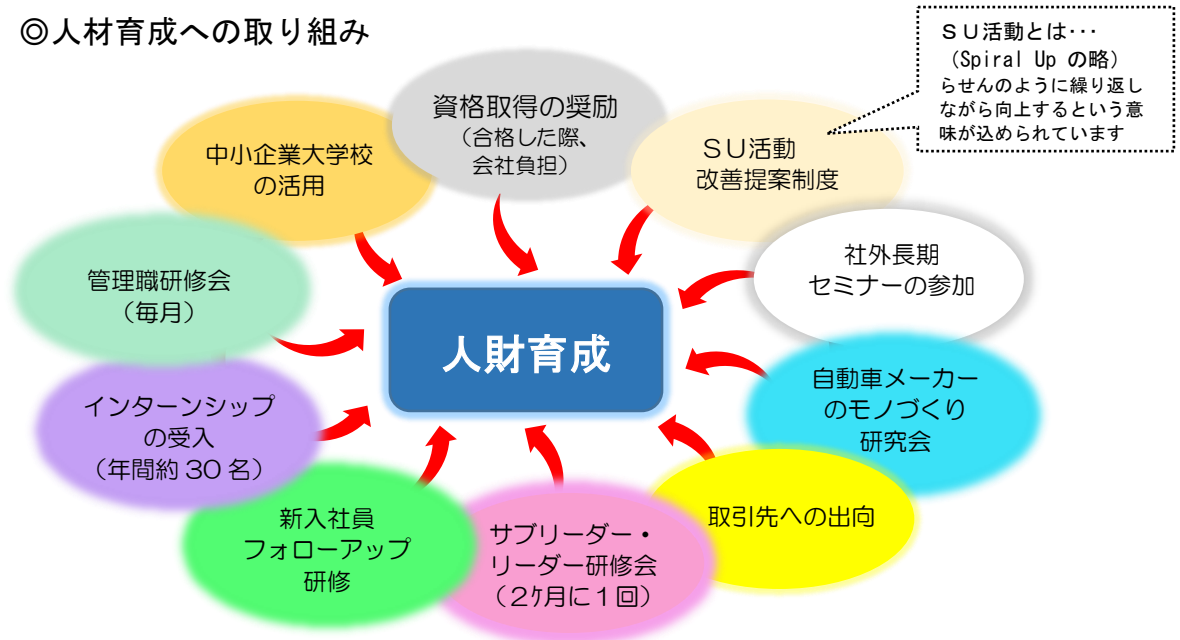
そして、多様な社員のために次のことをされています。

◎満足度を高めるための取り組み



この他、新事業の立ち上げ（メタルグッズ事業でオリジナル商品を展開中！干支の置物は、楽しみにしておられるお客様も多いとか・・・）やユニフォーム製作には社員が考えたデザインを採用するなど様々な場面でやる気の“仕掛け”が考えられていました。

◎人材育成への取り組み

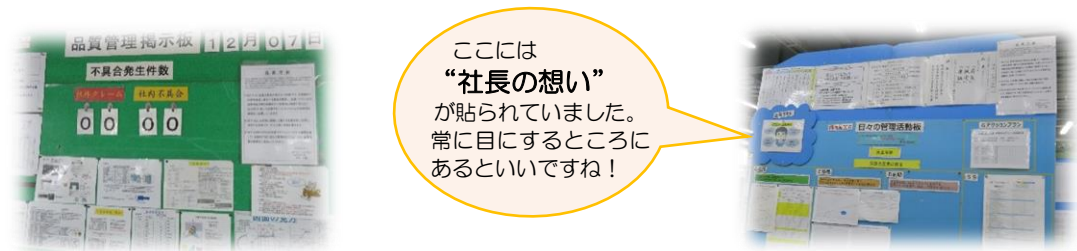


社内外の研修やセミナーなども積極的に活用されているようです。

そして、SU活動の内容はランキング形式で、食堂の壁に綺麗に掲示され、個人の改善提案件数（3ヶ月に一度報奨金が出るようです！）や資格等も一目でわかるようにグラフや表にまとめられていました。



工場では、各部署みな黙々と働いておられ、ここでも様々な工夫がされていました。



また、工場のレイアウト図内には、担当者の顔写真と名前が一致するよう貼り出され、新入社員や外国人社員にもわかりやすくしてあります。そして、社員が外国人社員のために開く勉強会スケジュールも貼ってあり、お互いを思い助け合う絆を垣間見た気がしました。

企業のブランド化

技術や業績はもちろん、こういった日々の積み重ねから、社員の一体感ができ離職も減り、現在の“戸畑ターレット工作所”になっているのだと強く感じました。

